

令和元年度 嬉野市立五町田小学校 学校評価 年度末結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「かしこく やさしく たくましい五町田っ子の育成」 ① かしこい子(主体的に学び、集団の中で生き生きと活動できる子ども) ② やさしい子(自分で考え行動し、他者と協力できる子ども) ③ たくましい子(心も体も健康で ねばり強い子ども)	(1) 業務の効率化と次の視点に立った業務改善 (2) 確かな学力の育成と校内研究の推進 (3) 生徒指導、安全教育の推進と学級経営、特別支援教育、教育相談の充実 (4) 健康・体づくりの推進

取組状況	A:ほぼ取り組みできている B:概ね取り組みができている C:取り組みがやや不十分である
------	--

3 目標・評価							
【学校運営】							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	年度末 評価	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・計画的・効率的な業務の遂行	・「計画的・効率的に業務を進めている。」と自己評価する職員の割合60%以上をめざす。 ・時間外自発勤務時間(教諭の平均時間)を平成30年度より縮減させる。	・年度当初に学校行事やプロジェクトの活動の見直し・精選を行い、・年間計画や工程表にもとづき、見直しを持って業務に取り組む。 ・職員会議の提案(連絡事項と協議事項の区別等)の工夫を行い、会議や研修の回数を減らすようにする。(職員会議を行わない月を4回) ・毎週金曜日と第3水曜日の定時退勤を推奨する。タイムレコーダー表示の時間外勤務時間を意識する。	A	・職員アンケートで「計画的・効率的に業務を進めている」と回答した職員は95%で、1回目の72.2%より大幅に向上している。 ・職員会議の内容の見直しを行い、回数を4回減らした。 ・行事の後のふりかえりを行い、来年度に向けての精選を行った。 ・会議後の定時退勤日の取り組みはあまりできなかったものの時間外自発時間は31.2時間で昨年より2時間下回った。	・職員会議や研修について、年度当初に年間計画を作成し、偏りなく無理なくできるようにする。 ・今年度の反省をもとに行事の精選を行う。 ・定時退勤日の取り組みがすすむよう、職員への声掛けをしたり、見直しを持って仕事ができるよう早めの提案をしたりする。
【かしこい子プロジェクト】							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策(*下線部は中間評価後追加内容)	年度末 評価	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・学習指導並びに校内研究の充実	・アンケートで「授業がわかりやすい」と答える児童が90%以上を目指す。 ・「授業中進んで学び合いをしている」と答える児童が80%以上を目指す。	・担任等は年に1度授業を公開し、「学び合い」に関する研究会を実施する。 ・嬉野メソッドの学習過程表示プレートを活用するとともに、ノート指導を行う。 ・児童が自分の考えをもてるように、思考ツールの提示や活用を工夫していく。 ・ <u>前向きな意思表示ができるような問いかけを工夫する。</u>	A	・児童アンケートで、「算数の授業はわかりやすい」と答える児童は91%で、目標を上回ることができた。保護者アンケートでも「授業が分かりやすい」と答えた保護者は、96%であった。 ・校内研究において、下学年は算数科で上学年は国語科で全員が公開授業を行い、「学び合い」についての研究授業を積み重ねたことで、児童の学習意欲へとつながった。 ・学習過程表示プレートを活用し、学習の流れが定着できた。 ・学習内容の定着を図るために、形成的評価プリントを単元ごとに実施し、児童のつまずきを発見し定着につなげることができた。	・児童に問いかけるとき「分かった人」の意思表示だけでなく、「書いた人」と問いかけるなど教師が問いかけを工夫する必要がある。 ・めあて・まとめ等の色分け等ノート指導の共通理解を図る必要がある。
		・基礎学力の定着	・国語・算数の単元末テストで全国平均を上回る。	・基礎学力の定着を目標として、年3回の検定テスト(国・算)に取り組む。得点率が9割に満たなかった児童については再テストを実施し、全員合格を目指す。 ・朝の時間に国語・算数タイムを設定し、全職員で指導にあたる。国語・算数の活用問題プリントを整理し、活用する。 ・授業の中で随時小テスト等による形成評価を行い、個別指導に生かす。 ・書く力や記述力向上のため、体験活動後の作文、日記、条件を指定した課題作文など日常の書き慣れのための工夫を行う。	A	・各学年のそれぞれの単元末テストでは、国語・算数ともにおおむね全国平均を上回っていた。年3回のマスターテストは、事前に練習問題に取り組ませ、実施した。1回で合格できなかった児童には、個別指導を行ったうえ、再テストをしたので、全員合格することができた。 ・国語タイム・算数タイムでは、全職員で指導にあたり、協力して指導することができた。 ・日記や体験活動後の作文など日常的な指導に加え、テーマ作文等にも取り組んだ。上学年では、新聞記事を切り取り、記事の内容を要約したり感想を書いたりする活動をすることで、書くことへの抵抗を少なくすることができた。	・「今日の3問」等短時間でできる学習活動を毎日取り入れ、学力の定着を図る。 ・たくさんの文章を速読する訓練も取り入れる必要がある。 ・作文、日記指導の定期化を図る。
		・学習習慣・学習規律の定着	・アンケートで「自ら家庭学習に取り組んでいる」と答える保護者が80%以上を目指す。	・生活習慣チェックシートの家庭学習欄に各学年の学習時間を明記し、毎日チェックすることで意識づけを図るとともに、情報発信を行って保護者との連携を図る。 ・家庭学習の取り組み方・自主学習の取組み方について職員間で共通理解を図り、家庭学習の内容と自学ノート課題を工夫する。 ・全校的に自主学習に取り組む、自学ノートコンクール展(学期1回)を開催したり、通信等で取組の状況を伝えたりして保護者の意識も高め、定着を図る。	A	・児童アンケートで、「10分×学年+10分の家庭学習ができた」と答えた児童は92%であった。これは、「生活習慣チェックシート」で毎日の家庭学習の取り組みをチェックするなど継続した取組や指導を徹底したことが、意識付けにつながったと考える。 ・家庭学習及び自主学習の取組み方の共通理解が図られた。 ・自学ノートコンクール(学期1回)の実施、取組み週間の設定、自学コーナーによる掲示などの実践ができた。	・宿題の意義の理解を図り、児童の取組み方(量や種類)などを紹介し、賞賛する。
	○ICT利活用教育の推進	・教職員のICT利活用のスキルアップ	・授業を担当する教職員は、ICT機器を使った授業や活動を毎日実施する。	・ICT機器利活用に関する職員研修(機器の使い方、教材作成等)の年間計画を立てて実施する。 ・ICT活用教材やワークシート、プレゼンデータ等をサーバー保存し、共有化を図る。作成した個人資料をサーバーに保存するよう声をかける。	A	・サーバー内にデジタル教科書等の資料が保存しており、電子黒板は日々有効活用されている。 ・赴任してきた職員が本校パソコン室の使用に慣れていない。 ・ICT活用教材やワークシート等の資料を共有できるような体制を整える。	・年度当初に、パソコン室の基本的な使い方を確認する研修を行う必要がある。 ・授業資料を保存し、すぐ使えるようにするためのフォルダーを構築しなければならない。
	○読書指導・図書館教育	・読書活動の充実	・年間の貸出冊数、低100冊・中90冊・高80冊以上。 ・いきいきブックリストを全て読了する児童を60%以上。	・ <u>読書の意義や大切さを知らせる機会を設ける。</u> ・休み時間の図書室利用について、各学級で時間を設定し、担任が声掛けをする。 ・読書状況について放送や図書館だよりで知らせ、多読者表彰やいきいきブック読了認定を定期的に行う。 ・読書タイムや時間がある時に読む本を、常に用意するように促す。 ・家でも本を読むように声をかけ、生活習慣チェックカードで取り組み状況を確認する。また、読書回覧板で家読を推進する。	A	・平均貸出冊数は、12月末の時点で、低学年120冊、中学年123冊、高学年117冊と、低・中・高学年共に、目標冊数を上回ることができた。よく図書館に足を運び、本を借りて読むことができています。 ・給食時間に、いきいきブック達成者の紹介や、イベント参加への呼びかけ、図書室利用状況のお知らせなど、図書委員会が積極的に行った。 ・朝の読書タイムは、どの学年も静かに取り組んでいる。引き続き取り組んでいきたい。 ・親子読書回覧版は、保護者の協力を得て定着してきた。感想ノートも、親子でたくさん感想が書かれていて、家読のよさがうかがえた。 ・全職員による読み聞かせを実施し、本への楽しい誘いができた。	・本に親しみ、読書を楽しむ児童が増えるように、図書館まつり等の様々なイベントの開催や職員による読み聞かせの工夫などを行っていく。 ・いきいきブックの読了者60%をめざして声かけを継続していく。 ・国語や総合的な学習の時間などの授業の中で、本校図書室だけでなく、地域の図書館を利用した学習計画を立て、多くの本に触れさせていく。

【やさしいプロジェクト】							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策（＊下線部は2学期追加内容）	年度末 評価	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導・安全教育	・生活指導の徹底 (落ち着いた学校)	・学校や地域、家庭で自分から進んで挨拶ができる児童90%以上。	・4月に全校的な挨拶指導のポイントを提示し、指導の徹底と評価方法(多様な表彰等)の工夫を行う。 ・地域の人に挨拶アンケートを取る(評議員会等)。 ・友達同士、各教室での挨拶を指導していく。家庭での意識の向上を図り協力を呼びかける。(生活チェックカードに「あいさつ」の欄を設ける。)	A	・挨拶に対する子どもたちの自己評価は98.5%だが、保護者の評価は81.1%と開きが見られる。保護者の評価を上げるために、更に地域、家庭、学校で連携して取り組んでいきたい。 ・生活チェックシートに挨拶の項目を入れ、意識化を図ることができた。	・全職員で毎日継続して「挨拶・返事」の徹底を心がける。また、保護者の協力が不可欠なので、引き続き協力をお願いする。 ・挨拶と共に「返事」の徹底をする。
			・集団(複数)での登下校を徹底する。 ・アンケートで「徒歩や自転車で横断する時は、必ず止まって左右確認するなどの安全確認をして渡っている」と答える児童(保護者)が90%以上を目指す。	・毎月1回集団下校を行い、安全な登下校ができていふか振り返り、意識付けをしていく。また、問題があった場合は、随時指導を行い、安全意識の定着を図るようにする。 ・全体指導や巡回指導などを行うとともに、地域にも呼びかけ、学校と地域が協力して事故防止に努める。 ・安全マップを用いて、全体指導を行う。	A	・集団下校では、交通事故の危険性を継続して指導した。 ・交差点での横断の左右確認は98.5%であるが、横断中に注意散漫になり、左右確認を怠ることがある。身を守るための判断力を身に付けさせたい。 ・避難訓練時に安全マップを用いて指導ができた。 ・コミュニティに参加を呼びかけ、地域で見守ってもらっていることを子どもたちに伝えることができた。	・全校朝会、集団下校、クラス内など事あるごとに、確認と注意喚起を継続する。
	●心の教育	・自己肯定感、自尊感情の育成 ・教育相談体制の充実	・担任からの児童への声掛け ・Q-Uテストにおいて、前期よりも後期は、満足群を増やし要支援群を減らす。 ・「学校が楽しい」という児童の割合を90%以上。	・1日1回はすべての児童に話しかけ、児童の頑張りや活動に対して、賞賛や励ましの言葉をかける。 ・前期Q-Uテストを5月に実施し、事例研を通して学級経営や配慮が必要な児童の支援に生かす。 ・児童の実態を把握し、学級に応じた構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを学活等で実施する。 ・随時児童の情報共有に努めるために児童情報共有会を週1回行い、教育相談打ち合わせやケース会議などを行うことで、職員の共通理解を図り、児童理解と支援に努める。	B	・学級での活動や友達と認め合う場面(学び合い)を継続して取り入れたことによって学校が楽しいという児童が91.7%であった。 ・ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターの実施が75%で十分でなかった。 ・職員は、1日1回はすべての児童に話しかける意識を高める。そして、子どもを多面的に見る意識を持つ。	・児童アンケート及び、Q-Uテストで名前があがった子どもたちへ積極的に声をかける。 ・引き続き相談箱(指名制)やアンケートを活用して、児童が相談しやすい環境づくりをする。 ・児童の頑張りの過程に対して、賞賛や励ましの言葉をかける。 ・ソーシャルスキル教材について研修を深める。
	●いじめ問題への対応	・よりよい人間関係づくり	・いじめの早期発見、早期対応 ・問題行動等について職員間での情報共有率100%をめざす	・日常の観察を心がけ、子どもの小さな変化やつぶやきを見逃さないようにする。また、子どもが相談しやすい雰囲気作りを行う。 ・職員間で情報交換を行い、全職員で対応できるような体制強化に努める。 ・月1回の「なかよしアンケート」やQ-Uテストの結果をもとに不安や悩みを持つ児童の相談活動を行う(覚知に努める)。 ・子どもどうしで注意しあうことができるような学級づくりを努める。 ・人権集会で、心のアンケートの結果をもとに人間関係づくりの意識付けを図る。	A	・週一回の児童情報共有会を開くことにより、迅速な情報共有ができた。また、一貫した指導を職員が連携して実施できた。 ・なかよしアンケートや2回目のQ-U分析を、各クラス複数の職員で行い、クラスの実況や子どもたちのSOSに対応できた。 ・人権集会では心のアンケートを基に、五町田小学校全員が楽しく過ごせることの大切さを伝えた。	・児童共有会を継続し、教育相談を中心に、来年度に向けて、気になる児童を積極的に共有していく。 ・なかよしアンケートを毎月行い、覚知に努める。
	●志を高める教育	・夢の実現に向かう気持ちの向上	・「ふるさと塩田のよさ」を発見し、愛着を持っている」に回答する児童が80%以上をめざす。	・各教科・学校行事等を通して、郷土について学ぶ学習に取り組む。 ・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動の充実を図る。	A	・97%の児童が地域学習が好きと答えている。保護者からの評価では、96.8%と達成できた。 ・地域コミュニティへの活用ができています。学年に応じた、地域学習に取り組んでいる。	・更に人材発掘をしていき、活動を通して地域のよさに気付くよう意識づけをしていきたい。

【た〜ましい子プロジェクト】							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策(*下線部は2学期追加内容)		成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○体力向上	・体力・運動機能向上	・水泳やマラソン、なわとびなど、「自分の記録をのぼそうとがんばっている」と答える児童が90%をめざす。	・「マラソン週間」「なわとび週間」の充実を図り、マラソン大会やなわとび記録会等における自己の記録向上にむけての意欲を高める。 ・「佐賀県スポーツチャレンジ」に参加することを通して、運動の楽しさや、競争することの楽しさを感じさせる。 ・各学級の「みんなで遊び」や、「縦割り遊び」における遊びの幅を広げるために、「遊びの手引き」を各学級に配布し充実活用を図る。	A	・児童、保護者、職員アンケートはどれも90%以上を達成することができた。マラソン大会に向けて、児童がマイベースマラソンを頑張ってきた結果だと考える。また、なわとびについても、昼休みに練習する児童が増え、意欲的に取り組む児童が多く見られている。 ・「佐賀県スポーツチャレンジ」は、多くの学年で8の字跳びやマラソン選手に挑戦に取り組んだ。	・「佐賀県スポーツチャレンジ」の取組強化月間を設け、全クラスが意識をもって取り組めるようにする。 ・1月〜3月にクラスでの活動を充実させ、来年度につながるようにする。
	●健康・体づくり	・健康教育	・手洗い・うがい・歯磨きの習慣化90%以上	・全校児童にうがいを徹底させる為、放送で呼びかけ意識を高める。 ・児童に歯みがきの大切さを理解させ、習慣化できるまで学校と家庭が協力し定着を図る。家庭での歯みがきの協力を求めていく。	B	・児童、保護者、職員アンケートの結果は、どれも80%を超えており、食後の歯磨きは徹底できている。 ・手洗い・うがいについては、保護者アンケートの結果が68%であり、啓発しているが寒くなったこともあり、家庭では不十分であった。	・給食の時間に手洗いのCDを流し、意識化を図る。 ・学級通信でも保護者に協力を求める。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

☆会議や研修について内容を見直し年間計画を作成した。職員の働き方改革に対する意識も少しずつ意識も高まりつつある。その結果、子どもと向き合う時間や事務をする時間を作ることができた。また、コミュニティや教育相談員・スクールカウンセラー等の専門機関と連携をして教育活動や教育相談をすすめることで、担任が一人で抱え込まない体制づくりができ、担任の負担軽減につなげることができた。

■活動後のふりかえりと行事の精選を行い、外部専門家やコミュニティとの連携をさらに深めていきたい。また、仕事量がかからない中で時間外勤務時間の縮小への工夫をさらに続けるたい。

☆西部型授業の流れが定着し、「学び合い」を活用した授業づくりや基礎学力定着のための指導に全職員で取り組んだことで、単元末テスト等の結果にも成果が出ている。また、今年度はNIE教育にも取り組み、新聞に触れる機会が増え、ニュースなどの情報への関心が高まった。また、語彙が広がり、自分の考えを書くことにも少しずつ抵抗がなくなってきた。

■短時間でできる学習活動や読みの力を高める取り組みの充実を図る。読書指導については、たんぼほびきなどの企画では様々な工夫がされ読書量の増加につながっている。

☆生徒指導や安全指導の徹底により今年度も大きな問題行動等はなく、児童は安全で落ち着いた学校生活を送ることができた。いじめ問題への迅速な対応や教育相談体制も整い、Q-Uを活用しながら学級経営を進め、ほとんどの児童が良好な友達関係を築くことができていた。

■職員のソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウターの研修を深め、日常の声掛けや観察、教育相談をていねいに行う。また、職員間の共通理解を図りながらいじめ等の原因究明を進めていく。

☆「マイペースマラソン」や「ねわとび」を意図的に取り組む児童が多く見られた。歯磨きや校内における保健衛生面での指導は徹底できている。

■体力・運動能力の向上にむけて、「遊びの手引き」の充実や県スポーツチャレンジャーへの取り組み、そのための環境整備等に努めていく。また、冬場の手洗いうがいについては家庭に協力をお願い連携を深めながら進めている。